

涼しさや鐘をはなるる鐘の声 蕪村

尋常でない連日の猛暑が続いておりますが、まだまだ暑さはこれからです。十分にお体ご自愛くださいませよう念じ上げます

方丈（ほうじょう）

多くの方は既にご存じかと思いますが、禅宗では住職の正式な呼び名は「方丈」といいます。圓覚寺の住職として入寺して最初に聞かれた質問は、「住職さんのことを何とお呼びしたらよいですか？」という質問でした。土師村での昔からの呼び名は「おっさん（和尚さん）」で、今でもそう呼んで下さる方も沢山おられます。▼このお盆でお参りしたお家の中で、最近ご両親が亡くなり、今までお寺の事は全てご両親任せであった方が、久しぶりにこの質問をして下さいました。▼文殊菩薩さえも論破したという維摩居士が「丈四方（約四畳半）の部屋に住んでおられたのが由来だそうですが、曹洞宗、臨済宗で使われるとても大事な言葉です。呼ばれる方からは「方丈」でも「おっさん」でも「住職さん」でも有り難く感じさせていたでいております。

■百千万劫にも遭うこと難し

お経の始めに読む「開経偈」に、「無上甚深微妙法（むじよ

うじんじん みみょうのほうは）百千万劫難遭遇（ひやくせんまんごうにもあうことがたし）」とあります。今、私がおりにいるということ自体が、奇跡的な確率によって存在しているということでもあります。

「劫」とは時間の単位で、天女が0年に一度地上に舞い降りてきて、四方が4里の大岩の上を薄い羽衣でさつとなでて天に帰って行きます。その大岩が擦り切れて無くなるまでの時間が「一劫」だそうですから、百千万劫とはその一劫が百にも千にも万にも重なる時間で、とてつもない無限の時間を意味します。

話しはそれですが、先日宇宙から帰還したはやぶさ2が持ち帰った小惑星りゅうぐうの砂からアミノ酸が見つかったという大ニュースがありました。アミノ酸は生命の元となる物質で、この発見で地球の生命は隕石の衝突によって始まったという事がほぼ確実視されています。

ところが、地球外からもたらされたアミノ酸から、実際に生命が誕生するまでの確率は、2.5メートルプールに時計の部品を全てバラバラにした後、プールの水をぐるぐるとかき回して偶然に時計が組み上がる確率と同じだそうです。おそらく百千万劫という時間はこのことであろうと思われました。仏の教えに出会うという機会はそのほど希有であるけれども、今私は出会うことが出来ました。という偈文であります。